

西神門 まさかの矢速

紙相撲新聞

第165回本場所
四～五日目号

編集・発行
日本紙相撲協会

優勝最有力の西神門が連敗で一步後退

春翔、若嶋は1敗堅持、平幕若柱が全勝

【第百六十五回本場所四日目・五日目】
曇りがちでやや湿気を感じる天候のなか、6月7日本場所デビューを控えた新弟子検査のあと幕内と十両の四日目、五日目に幕下と育成会の初日の取り組みが練馬国技館で行われた。

三日目までを取り終えて3戦全勝だった西神門と大石丸がともに連敗し2敗に後退。ただひとり平幕の若柱が全勝を守り優勝戦線のトップに立つ展開となった。

四横綱の中でただひとり初日から3連勝で幸先の良いスタートを切った新横綱西神門。初日こそ相手を寄せ付け



↑五日目 前日月山に不覚を喫した西神門は五日目も鬼ヶ嶽の寄りにも屈してまさかの2連敗。新横綱での優勝、そして3連覇に黄信号が灯った。

↓五日目 連勝中の若柱は動きも軽く、麒麟王の寄りをタイミング良くかわして、引き落して5連勝。ただ一人全勝を守った。



ない横綱相撲で勝ったが二日目三日目は本来の相撲が取れずなんとか勝ちを拾った感はあるが、千代鈴が休場するなか優勝争いで一歩リードかと3連覇に期待する声も。

連続優勝はこの15年間では5力士が連覇を遂げているが、それ以上の連続優勝となると横綱英(1145119回)の6連覇を達成した19年前まで遡る事になる。

その3連覇に期待がかかる西神門は四日月山と対戦。出足はやや優った西神門、立ち会いから互いに右の押つけ合いだったが、月山に先のどの輪差されあえなく押し倒されて土がつくと、翌五日目の関脇鬼ヶ嶽との一番では立ち会

いからすぐに左を差され無抵抗のまま十俵を割った。中日以降の立て直しに期待がかかる。

ここまで2勝1敗の春ノ翔。迎えた四

戦で二敗の夢ノ花
との一番。がつぶ
り四つの立ち会
から左に回りか
た夢ノ花に右上
一閃、過去二戦
鬱憤を晴らすよ
うに豪快な上手
投げで土俵に沈めた。

押し得意の月山相手に、立ち会いから右の押っ付けで攻め立て月山の右をかわして押し倒しに破り横綱の意地を見せた。このまま1敗で優勝戦線を引っ張っているか。

二日目の熱戦で
は惜しくも敗れた
若ノ嶋、しかし初
日、三日目と完勝

実績通り立ち
会いから先手
を取る、電車
道で一気に
寄り切った。

も続く五日目
立ち会いから
押し勝ると逆
襲に出た四季
嶋に、胸を合
わせてがっち



若ノ嶋○(押し倒し)●四季嶋



若ノ嶋○(寄り切り)●綱乃花



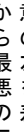
月 山●(押し倒し)○春ノ翔



春ノ翔○(上手投げ)●夢ノ花

り受け止め間髪入れずのど輪を差し込み土俵中央から力強く押し倒し4勝目をあげた。春ノ翔同様1敗を守り優勝戦線を引っ張ってほしい。

得意の左を差しながらももう一步が出ず、初日から最悪の三連敗のスタートとなった大神楽、なんとか優勝戦線に踏み止まるにはこれ以上負けられない。



券ノ川

四日目は勝ノ川を相手に立ち会いから鋭い出足で右を押し付けながら素早く左を差し、土俵中央から外へ外へと攻め立て正面土俵に寄り切つて連敗を止めると翌五日目は綱乃花との一番。

立ち会いやや押され
意味ながらもすぐさま
得意の左を差し、一氣
に向正面に寄り切って
2勝目をあげた。この
二日間で見た完璧な
左差しで中日から巻き
返しなるか。

上位陣に土が付くなか連日強豪のベテラン勢を破り3連勝で好発進した若柱。四日目は新入幕の音柱と対戦し立ち会いから鋭く前に出て速攻で左を差すと一気に正面へ寄り切つて4連勝すると、続く五日目は麒麟王との一番。

立ち会いから得意ののど輪を差され土俵際まで攻め立てられ押し倒されるかと思われたが、そののど輪をかわすとさらに左を差されるも粘りを見せ引き落としに下し5連勝とした。



大神楽○(寄り切り)●勝ノ川



網乃花●(寄り切り)○大神楽



若 柱○(寄り切り)●音 柱